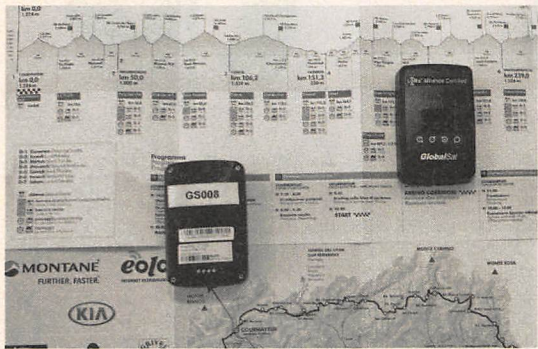


HM
世界
旅行社
トルデジアン

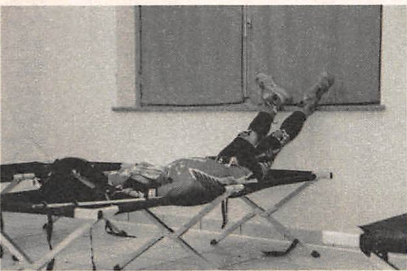
アルプスの山々をグルリ約340キロ。世界に名を轟かせる過酷な山岳レース「トルデジアン」に、旅行気分に参加したっていいんじゃない？ とばかりに、このツアー……否、レースに既に4回も参加している強者がいる。吉本 亮さんだ。制限時間をいっぱい使い、レースだけで旅行、を成功させる趣意とは？

森林限界を超えているので樹木はなく、安定の悪い岩場となる。初日なので参加者が列をなしているが、徐々に前後の間隔は開き、3日後には昼夜を問わず一人旅が始まる

World



グラン・パラディーズ、モンテ・ローザ、マッターホルン、モン・ブランの山々を間近に見ながらの旅は、安全性を高めるためにGPSトランスミッターで追跡される



休憩の際には足を上げたり、靴下も脱いで乾燥させたりと、足をいたわる工夫が重要



55か国からの参加者の平均年齢は46歳、完走者は24~74歳と幅広い



ガイド: 吉本 亮

トルデジアンは4回出走して全て完走。巨大なザックを背負って走る独特なスタイルのために特別賞を受賞し、本部サイトに名前が残る唯一の日本人。世界各国の超長距離山岳レースに参戦し、制限時間を最大に使って楽しむのが得意。日本山岳耐久レースでも途中で焼肉や酒を味わい、就寝・起床してからゴールする

制限時間をフルに使ってアルプス旅行を楽しもう!?

イタリア北端のヴァッレダオスタ州を一周するのが、巨人の旅を意味するトルデジアン。旅程は約340キロで宿泊地は6箇所、休憩所は30箇所あり、日曜出発の土曜帰着。ただし普通の旅行と違うのは、全行程を走る150時間のフランストップレースという点。もつとも山岳レースではあるものの、制限時間を目安に無理せず進めば、トップアスリートでなくても一周の旅行を楽しめる。

スタートはアオスタ州西北端のクールマイヨールで、日曜の午前10時。スタートを祝う人垣が、中心街から山の麓まで続くほどの歓迎ぶりに驚かされる。初日は元気でまだ勢いがあるため、軽く走りながら景色を楽しめる。ヨーロッパアルプスは急峻でありながらも一つ一つの山塊が大きい。またほとんどの箇所が森林限界を越えているため視界を遮るものがなく、5キロほど先にある次の峠も見えている。岩場の足元のさらに下方には教会や住居が見え、丘の上には十字架が見える。こうした景色を楽しめるのも、各所で給水・給食でき、重い荷物が不要となっているおかげだ。約50キロのトレッキングを終えると宿泊地に到着した。そこには熱いシャワーとベッドがあり、ビールとワイン、生ハムとチーズも用意してある。横になると同時に深い眠りにつき、覚めたらエスプレッソを飲んですぐに出発。

2日目以降は勢いが衰えるものの、まだ見ぬ風景を見たい！という好奇心も推進力にして先へ進む。中盤からは睡眠不足で歩みが極度に遅くなるものの、制限時間も緩くなるので無理をしないローインパクトな動きに徹する。そして最終日となる土曜日はクールマイヨールへ。モン・ブランを真正面にして下り、街中に入るとクルマからはクラクションとパッシング、窓からはマンマが手を振り、子どもたちが後をついてくる。スタートの時と同じく人垣を抜けると、高く作られたゴールが見えた。質問攻めのDJをかわしてポスターにサインすると、ビールが差し出されて旅は終了。名峰を至近距離から一望できるのはヴァッレダオスタ州ならではのアドバンテージ。旅行の終わりにこれほど祝福されるのはトルデジアンならではの醍醐味だ。